



# 将来、研究・開発リーダーを目指す学生の方へ ～日本学術振興会「特別研究員」制度のご案内～

## 1. 日本学術振興会「特別研究員」とは

「特別研究員」制度は、独立行政法人日本学術振興会により行われている研究者養成事業の1つであり、優れた研究能力を有する**大学院博士課程在学者（DC）及び修了者等（PD）**で、大学その他の**研究機関で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」として採用し、研究奨励金を支給する制度**です。特別研究員として採用されると、研究奨励金（生活費）の支給のほか、**特別研究員奨励費（研究費）の交付**も受け取ることが出来るため、**安定した研究活動を遂行**することが可能になります。

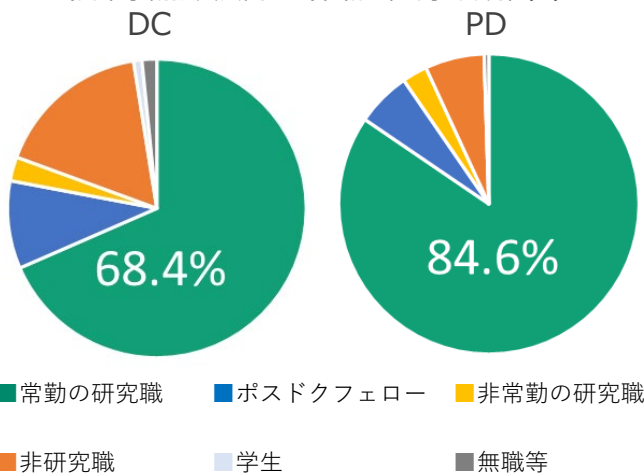
「特別研究員」制度は、優れた若手研究者に対し、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与えることにより、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としていることから、本制度は、**研究テーマに対する助成ではなく、将来を担う優れた人材に対する国の投資**であると言えます。

したがって、特別研究員への採用は、国から投資に値する人材であると認められたことにほかならず、就職に際し、その経歴を履歴書に記載することができるなど**研究者として非常に高いステータスを得ること**になります。

実際、右の表が示すとおり、特別研究員採用者のうち、その後、「常勤の研究職」として採用されている割合は、DCが約7割、PDが約8割という結果となっており、**選ばれし若手研究者**といっても過言ではありません。

### 特別研究員の就職状況調査結果

採用終了5年経過後就職状況  
(日本学術振興会調べ(令和4年4月1日現在))



### 採用期間、研究奨励金及び研究費

区分	採用期間	研究奨励金 (月額、令和5年度実績)	研究費 (採用期間内総額)
DC1	3年間	200,000円	450万円以内
DC2	2年間		300万円以内
PD	3年間	362,000円(※1)	450万円以内(※2)
RPD	3年間	362,000円(※1)	450万円以内(※2)
CPD	5年間 (PD採用期間含)	446,000円(※1)	1,500万円以内(※2)

※1 日本学術振興会が実施する「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」により、雇用制度導入機関として登録された研究機関に雇用されたPD,RPD,CPDには、研究機関から研究奨励金と同額相当又はそれ以上の給与が支給されます。

※2 別途30%の間接経費も措置されます。

#### <各区分の説明>

DC1 …大学院博士課程在籍者であり、残り在籍期間が3年間の者

DC2 …大学院博士課程在籍者であり、残り在籍期間が2年以内の者

PD …大学院博士課程修了者（博士の学位取得後5年未満の者）

RPD …大学院博士課程修了者であり、子の出産・育児による研究中断から復帰した者

CPD … PDに申請しPDに採用中の者が申請可能で、CPD採用後は3年間継続して海外で研究を行う。

## 2. 「特別研究員」採用後の支援等

「特別研究員」に採用された場合、研究奨励金や特別研究員奨励費による支援のほか、以下のような支援を受けられることも魅力の一つです。

### (1) 採用中の海外渡航

研究上の必要がある場合は、一時的に海外の研究機関で研究を行うことができます。特別研究員奨励費等により、通算して**特別研究員の採用期間の2/3を上限として渡航することが可能**であり、長期間にわたる海外での研究経験を積むことができます。また、日本学術振興会において海外の対応機関との連携により、特別研究員を対象とした海外渡航支援も行われております。

### (2) 出産・育児等のライフイベントに係る採用の中断及び延長

女性研究者に限らず若手研究者が働きやすい環境整備の一環として、出産・育児等のライフイベントに伴い研究に専念することが困難な場合には、**採用の中断及び延長が可能**となっています。

### (3) 研究奨励金及び特別研究員奨励費以外の資金援助

特別研究員は、採用期間中の研究専念義務の範囲内であれば、受入研究機関の寄附金・同窓会組織等による生活費相当の資金援助、自治体・民間企業等の公募による奨学金・助成金を受給することができます。また、特別研究員としての研究課題がさらに進展すると考える研究を実施する場合には、特別研究員奨励費以外の研究費を受給することができます。

### (4) (特別研究員PD・RPD・CPDのみ) 研究機関における雇用

日本学術振興会で実施する「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」により「雇用制度導入機関」として登録されている研究機関をPD・RPD・CPDが受入研究機関として選択した場合、**研究機関において常勤職相当として雇用**されます。東北大学は「雇用制度導入機関」に登録されており、PD等の給与を82,000円/月加算するなど、同事業による支援に本学独自の支援を合わせた若手研究者支援を実施しています。

東北大学  
webサイト



東北大学研究推進部  
研究推進課webサイト



## 3. 「特別研究員」に興味を持った方へ -応募に向けた準備等-

1、2で述べた通り「特別研究員」制度は、研究者を目指す方々にとって、非常に魅力的で且つ重要な制度です。しかしながら、その採用率は決して高くはないため、**学部4年・修士1年等の早い時期から、情報収集や応募に向けた準備を各自で行っておく**ことが重要です。

### 令和5年度採用特別研究員 分野別申請数・採用数・区分別採用率

日本学術振興会調べ（令和5年7月1日現在）

区分		人文学	社会科学	数物系科学	化学	工学系科学	情報学	生物系科学	農学・環境学	医歯薬学	採用率
DC1	申請数	356	410	585	356	703	320	390	362	509	17.3%
	採用数	58	62	106	62	123	56	71	63	89	
DC2	申請数	554	602	776	492	1,165	452	480	525	814	18.5%
	採用数	98	110	144	93	215	89	94	95	148	
PD	申請数	305	209	325	50	107	49	193	155	172	21.6%
	採用数	64	37	64	8	21	6	49	41	48	

## 準備① できるだけ、申請までに自身の強みとなる業績等を作ろう

特別研究員の選考においては、①「研究計画の着想およびオリジナリティ」、②「研究者としての資質」についてそれぞれ評価がなされます。そのため、申請書も大きく分けて「研究計画」と「研究遂行力の自己分析」について記載することが求められています。

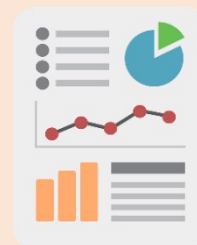
当該研究計画を実行する**研究者としての資質があるかどうかの判断材料となる**

「**研究遂行力の自己分析**」欄には、「研究に関する自身の強み（研究における主体性、発想力、問題解決力など）」及び「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」を記入する必要がありますが、これらについて説得力を持たせるためには、エビデンスに基づいて記載することが不可欠です。その**エビデンスとして重要となるのがそれまでに積み上げてきた自身の研究業績**です。

よって、特別研究員を志す場合、特別研究員としてどのようなテーマの研究を行いたいのか、**指導教員に早めに相談**し、できるだけ申請までにそれを示すことのできる研究業績を書けるようにしておきましょう。特に、**筆頭著者で論文を書くこと、査読無よりも査読有の論文を書くこと、国際学会で発表を行う（筆頭著者として登壇する）**ことなどが重要になります。

### 研究業績の例

- 学術雑誌等に発表した論文
- 国際学会における発表
- 国内学会・シンポジウム等における発表
- 優れた受賞歴



## 準備② 申請書を書くための準備に早く取りかかろう。

申請書の作成にあたっては、**研究計画を自らよく構想し、指導教員や研究室の先輩からのアドバイス・議論を経たうえで作成する**ことが重要です。特に申請書の中核となる「**研究の位置付け**」、「**研究目的、研究方法、研究内容**」、「**研究計画（採用期間中、何をどこまで明らかにしようとするのか）**」、「**研究の特色と独創的な点**」については**自らの文章で作文**し、指導教員や研究室の先輩に確認してもらったうえで**推敲を重ねる**ことが大変重要です。

また、早いうちに指導教員や研究室の先輩など頼れる方には積極的に相談し、過去の申請書を見せてもらいましょう。各部局において、過去の申請書の閲覧制度を設けている場合もありますので、所属する部局の事務に確認しましょう。

**採用者一覧**（※）で過去の採用課題を確認することができます。

※ [https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd\\_saiyoichiran.html](https://www.jsps.go.jp/j-pd/pd_saiyoichiran.html)



なお、申請書の内容は毎年度少しずつ見直しがなされます。**応募年度の申請書が公開されたら、日本学術振興会ホームページより速やかに最新の申請書を入手**し、どのような記載が求められているのかを分析のうえ、それに対応することが必要不可欠です。

学内向けの「**日本学術振興会特別研究員募集等に関する説明会**」や、現役の特別研究員に直接申請等の相談をすることができる「**個別相談会**」を開催しています。このような催しに積極的に参加し有益な情報を入手しましょう。

### 本学の支援一覧

- 特別研究員募集等説明会（You Tube・3月頃配信）
- 個別相談会（Zoom・3月頃）
- 学振特別研究員への採用可能性がぐんとupするtipsの配付（3月頃）
- 申請書作成上のチェックポイント、確認用チェックリストの配付（3月頃）
- 申請書閲覧制度



## 4. 「特別研究員」採用者の声

### 申請を通して自身の研究と向き合う

令和5年度特別研究員DC1採用

教育学研究科 新津 雪乃

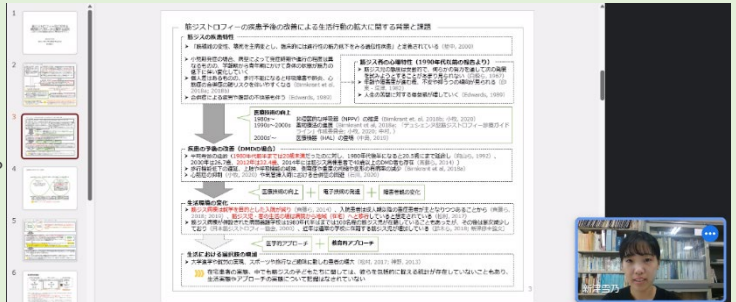
研究課題名：インクルーシブ教育の進展による

デュシャンヌ型筋ジストロフィー児の自己理解の特徴



私が博士課程の進学を決めたのは修士1年の10月頃でした。同時期に特別研究員になれば研究生生活を送る上で経済面の不安が解消されるだけでなく、業績の1つとなるという学振の利点を知りましたが、当時の私には業績もなかったため、申請は無理だろうとあきらめていました。しかし、学振へのチャレンジは自身の研究を考える機会になると思い、2月頃から申請準備に取り掛かりました。

申請にあたり私が重要視したポイントは、研究に対する自身の強みの明確化です。上述の通り、私は業績がなかったのですが、これまで研究を通して出会ってきた当事者の方々の実情を知っていることは一番の強みだと思い、当事者の実情や課題に自身の研究がどのように貢献するかという視点を持ち続けて申請書を作成しました。申請準備は大変ですが、自身の研究計画と向き合うことは今後の糧になると思います。皆さんの挑戦を応援しております。



研究活動の様子

### 幾度もの修正作業を乗り越えた先にある採用

令和5年度特別研究員DC2採用

工学研究科 土木工学専攻 藤田 真梓

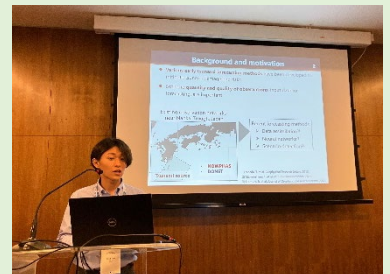
研究課題名：超解像が叶えるスペース観測網の最適設計に基づく革新的即時津波予測体系



特別研究員に採用されると生活費と研究費の両方を得ることができます。これにより自身の生活を安定させながら、研究に必要な機材（筆者の場合は高性能PC等）の購入や国際会議での発表（写真参照）のための費用を賄うことができ、大きなアドバンテージになります。

申請書の作成では執筆と修正をどれだけ繰り返すことができるかが重要です。このとき、初めから完璧な申請書を作成する必要はなく、徐々に完成度を高めていけば良いと思います。効率的に完成度を上げるために、修正作業は自分自身で行うだけでなく、できれば複数人（例えば研究室の同期、先輩・後輩、指導教員）に依頼することをお勧めします。実際、私は3名の先生方に幾度も指導を仰ぐとともに、同じく特別研究員DC2に応募した研究室の同期とも互いの申請書に意見を出し合いました。私の申請書が採用に足るものへと昇華されたのは、自身を含めた複数人の意見を統合し、アップデートを繰り返した結果であると思います。

申請書の執筆は時間も労力も必要となる大変な作業ですが、乗り越えた先には様々な恩恵が待っています。ご成功をお祈りしています。



国際会議での発表 in Singapore

より詳しい情報を知りたい方は、[日本学術振興会](http://www.jsps.go.jp/j-pd/)・[東北大学のホームページ](https://c.bureau.tohoku.ac.jp/kensui-top/3jsps/)をご確認ください。

日本学術振興会 <http://www.jsps.go.jp/j-pd/>



東北大学研究推進課 <https://c.bureau.tohoku.ac.jp/kensui-top/3jsps/>

